

「水防災意識社会再構築ビジョン」に
基づく由良川の取組方針の実施状況
(令和3年4月末時点)

- ・出水期前に実施する洪水対応演習において、毎年ホットラインの訓練を実施。
- ・毎年度の実施を目標とし、地域防災訓練において、ホットラインの訓練を行う。

【4市、近畿地整】

実施状況

- 福知山市≪R1年度≫洪水対応演習(4月26日)及び福知山市地域防災訓練(9月1日)にて、福知山河川国道事務所長と本市危機管理監によるホットライン訓練実施。
≪R2年度≫洪水対応演習(4月21日)では福知山河川国道事務所長と本市危機管理監によるホットライン訓練を、福知山市地域防災訓練(8月30日)では京都府中丹西土木事務所長と市長によるホットライン訓練実施。
- 舞鶴市≪R1年度≫舞鶴総合防災訓練(10月27日)を実施。
- 綾部市≪R1年度≫洪水対応演習(4月26日)では情報伝達訓練やホットライン訓練を、市独自の防災訓練(9月3日)では陸上自衛隊福知山駐屯地第7普通科連隊、福知山河川国道事務所との情報伝達訓練実施。
- 近畿地整≪R1年度≫福知山市地域防災訓練(9月1日)、舞鶴総合防災訓練(10月27日)にて、排水ポンプ車出動訓練や樋門操作訓練、ホットライン訓練等を実施。
≪R2年度≫福知山市危機管理監とのホットライン訓練実施(4月21日)



防災訓練(福知山市)



綾部市防災訓練(綾部市)

取組を実施した効果、成果

- ・ホットラインの運用確認を行うことで通信確認に加えて、災害時の迅速かつ的確な住民への情報伝達体制の確立や、応急対策の習熟による被害軽減に繋がる。

ソフト対策 防災関係機関の連携について②

・R1年度末までにタイムラインについて、連携機関を広げるブラッシュアップに努める。
 【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

- 舞鶴市≪R1年度・R2年度≫多機関連携型タイムラインの検証を実施。
- 京都府≪R1年度・R2年度≫タイムラインを作成し、関係機関と共有。

由良川舞鶴タイムライン

資料2-2

時間	京都府気象台	福知山河川国道事務所	京都市中川河川事務所	舞鶴市危機管理課	自主防災組織・住民等	消防本部	国・府事業推進課	舞鶴市土木課	農林課
48時間前	○台風予報 ○台風に関する気象庁記者会見 (社会的影響が大きいと考えられる場合) ○台風説明会(京都府気象台) ○台風に関する気象情報(随時)	○水位、気象情報の確認 ○河川管理施設の状態・確認 ○工事業者への現場安全確認指示 ○災害対策資機材の確認 ○体制の確認	○京都市中川流域災害対策(管・河川)支援 ・市及び関係機関と情報収集・伝達連携調整 ・本部会議・ヘリエジンの調整など ○水位、気象情報の確認 ○体制の確認 ○台風に関する気象情報共有 ○災害対策資機材の確認 ○由良川沿川通行協力業者への準備依頼	○水位、気象状況の確認 ○住民への防災訓練等による 注意喚起 ○消防団等への注意喚起 ○学校、休校の判断、体制の確認等	○気象情報の確認 (テレビ・インターネット等) ○ハザードマップ等による避難所 ・避難ルートの確認 ○防災グッズの準備 ○災害・避難カードの確認 ○自宅安全	台風説明会 台風情報を各消防署(所)・各消防団と情報共有し、 水防資機材(器)材の保有状況等の確認を実施	・排水ポンプ車運用についての協議 (国交省及び市建設部(土木課)) ・専門操作員へ対応について確認 ・専門機材の確認、専門オペレーター確認 ・排水ポンプ車運用準備 ・専門操作員への待機指示	◀台風等の確認が予想される場合▶ ・排水ポンプ車配備調整 ・台風等の接近前の上りの製作	○関係者への注意喚起 (台風接近時により、洪水警報が出る おそれがある場合) ・ため池管理者に注意喚起 (備前池、早野池等) ・大規模農家等に注意喚起 (特に住居が河川から離れている農家へ 農機具等の移動について)
16時間前			【大用注意喚起】						
注意発表	○大雨注意報・洪水注意報発表	【注意体制】	【基本配備】 ○防災情報を府民に発信 ○大用注意喚起	舞鶴市連絡調整会議設置		【非常態対応】 ・水防資機材の準備及び悪天候時に必要な資機材の増強 ・危険箇所(重点ハザード箇所)の情報共有 ・非常態対応計画に基づく(該当職員への自宅待機体制) 【非常態対応】消防団員全員に、常に連絡の取れる体制とするよう周知			
警報発表	○大雨警報・洪水警報発表	【第1警戒体制】 ○専門操作員への機材操作指示	【警戒1号配備】	舞鶴市災害警戒本部設置 【第1号配備(警戒体制)】 ○住民への防災訓練等による注意喚起 ○専門操作員への操作指示		【非常態対応】 ・管内、河川ハザード実施 ・消防団本部・消防団本部開設、団員一部出動による警戒体制 ・避難所開設に伴い広域活動および避難誘導 ※加圧地区が孤立する可能性を考慮し、「加圧分派発/冷派発」			
10時間前	○水防団待機水位到達 福知山水位観測所(水位2.0m超過)	○水位警報(待機・準備) ○流況観測業者へ出動指示 ○水防警報(出動)	○警戒2号配備 ○由良川沿川通行規制【待機】 ・関係機関へ連絡 ○流況観測の状況により、通行規制を実施	○水防団への待機、準備指示 ○水防団への出動指示					
7時間前	○注意注意水位到達 福知山水位観測所(水位4.0m超過)	○洪水予報(注意注意情報) ○流況観測業者への観測開始指示 ○機材準備による緊急出動及び 施設点検開始 ○予備水位の情報提供開始 (毎正時) ○関係業者等での観測水位と 予備水位の情報提供開始 (5分単位)	○由良川沿川通行規制【準備】 ・関係機関へ連絡 ・要支援者(高齢)の避難協議	○避難・水防活動状況確認 ○避難準備情報の発令判断 ○特定緊急避難場所の開設 ○避難準備情報発令 避難所開設の準備 ・避難所開設の指定水位引違等 (4か)を踏まえ、水位引違の上昇 ・5分単位での水位観測	○防災訓練、誘導ルール等による 避難準備情報の受信 ○避難の準備 (筆記道具等) ○5分単位での水位観測				

由良川舞鶴タイムライン(舞鶴市)

取組を実施した効果、成果

- ・タイムラインの連携機関を広げることで、災害発生時の連携が円滑に行うことが期待できる。
- ・随時改善していくことで、災害対応の検証ができ、対応の改善に資することができる。

- ・R2年度末までに随時、中流部の無堤地区等における避難のタイミングについて検討し、必要に応じてタイムラインに位置付ける。
- 【4市、京都府、近畿地整】

実施状況

●舞鶴市《R1年度・R2年度》

由良川沿川の無堤地区に避難のタイミングについて説明を実施。

●綾部市《R1年度》3地区(里自治会、下市自治会、

西坂自治会)で、避難行動タイムライン及び防災マップの作成支援。

《R2年度》14自治会で、避難行動タイムライン及び防災マップの作成支援



令和元年12月15日実施

令和元年8月21日
掲載

避難行動タイムラインのワークショップの様子(綾部市)

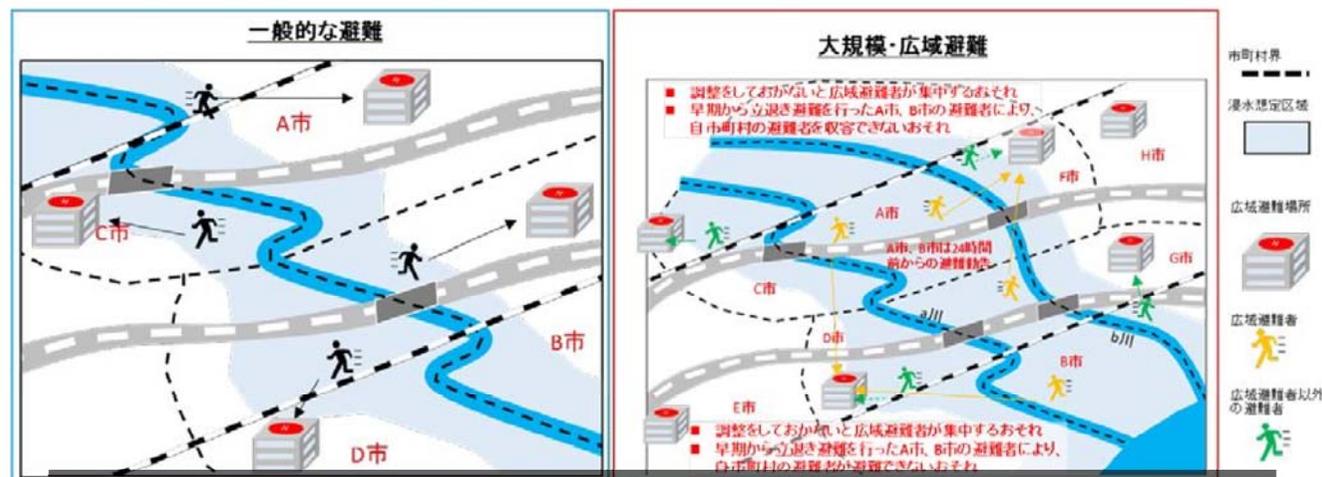
取組を実施した効果、成果

- ・避難行動のタイムラインを作成することで、住民の方の防災意識の向上や、地域の災害リスクを踏まえた適切な避難体制の構築によるスムーズな避難行動につながる。

- ・R2年度末までに随時、当該市内の避難場所だけで避難者を収容できない場合等は、隣接市における避難場所の設定や洪水時の連絡体制等について検討や調整を実施し、必要に応じて隣接市への広域避難体制を構築 【4市】

実施状況

- 福知山市≪R1年度・R2年度≫隣接市への避難を検討したが、避難先の公民館が浸水想定区域内に位置しているなど、有効な案ではなかった。
- 舞鶴市≪R1年度・R2年度≫近隣市町での連絡体制は構築済みで、消防の広域連携を進めている。



広域避難のイメージ

(『広域避難計画策定のための具体的な検討手順』平成30年6月内閣府より抜粋)

取組を実施した効果、成果

- ・隣接する市間での広域避難体制を構築しておくことで、災害の規模に合わせ臨機応変に、円滑な避難所運営が期待できる。

- ・R2年度末までに、想定最大規模降雨時の洪水浸水想定区域図等を反映した水害ハザードマップの作成・公表・周知

【4市】

実施状況

●福知山市《R2年度》

15自治会において、想定最大規模降雨時の洪水浸水想定区域図等を反映した自治会ごとのマップやタイムラインの作成を実施。

和久市防災マップ
(福知山市)

●舞鶴市《R2年度》

由良川沿川地域で住民説明会を実施し、周知を行った。



由良川沿川区長説明会(舞鶴市)

●綾部市《R2年度》

由良川及び京都府管理河川の想定最大規模降雨時の浸水想定図を反映したハザードマップを作成中。

由良川水系犀川 洪水浸水想定区域図
(想定最大規模)(綾部市)

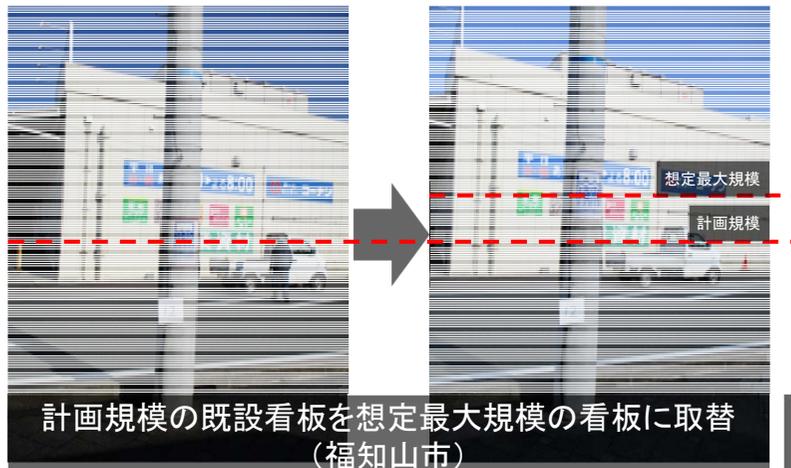
取組を実施した効果、成果

- ・水害ハザードマップによる住民の方への災害リスクの周知により、防災意識の向上に繋がる。

- ・R2年度末までに随時、まるごとまちごとハザードマップなど災害リスクの現地表示を実施
【4市、京都府、近畿地整】

実施状況

- 福知山市≪R2年度≫想定最大規模の浸水深を示す看板を市内の50箇所を設置。
- 近畿地整≪R1年度≫住民の方の目に触れやすい場所に『水害表示板』として昭和28年・34年・47年、平成16年の洪水での水位を表示していたが、令和元年度は新たに平成25年と平成30年の洪水水位標の設置等を実施



- 洪水・内水・高潮の浸水深に関する情報例



取組を実施した効果、成果

- ・現地に過去の洪水時の浸水深や想定最大規模の浸水深等を表示する事で、住民だけでなく観光客等に対しても災害リスクを周知し、日頃から洪水時の避難行動を意識する効果が見込まれる。

・R2年度末を目標時期とし、想定最大規模降雨時の浸水範囲や浸水深等を踏まえ、①由良川沿川の道路が全線にわたり冠水したり地区全体が大きく水没するなど垂直避難が不可能な地区については、広域的な避難が出来るよう発令基準を従来より早めるほか、②毎回想定最大規模の水害に対する避難体制をとることが困難かつ現実的でないと考えられる場合は、計画規模等の水害に対する1次避難から2次避難への移行判断基準を設けるなど、地区の実情に応じた避難情報の発令基準を検討し取り決める。

【4市、近畿地整】

実施状況

●福知山市《R1年度・R2年度》

過去の災害では、市内複数個所での道路冠水による孤立地区が発生。こうした状況を踏まえ「避難のあり方検討会」で、緊急車両（排水ポンプ車、救急車、救援物資輸送車両等）の移動経路の確保について関係機関等において調整、共有を行った。

●舞鶴市《R1年度・R2年度》

平成28年9月に作成した「避難情報判断・伝達マニュアル」に基づき、避難情報の発表基準を設定し、ブラッシュアップに努めている。

取組を実施した効果、成果

- ・2段階避難を検討しておくことで、洪水の規模に対して柔軟に対応できる。
- ・緊急車両の移動経路の確保及び孤立を想定した前進配置により、出水時の孤立地区への確実な対応体制の構築が図られる。

・R1年度末までに、想定最大規模降雨時の浸水範囲や浸水深も踏まえた(必要に応じ広域的な)避難体制(避難所関係含む)の再構築・検討を実施。この際、避難行動要支援者への配慮を適切に行う。

【4市】

実施状況

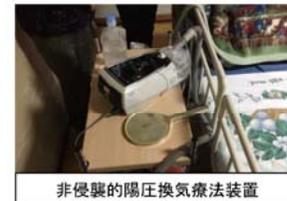
●福知山市<<R2年度>>

想定最大規模降雨時の浸水深を踏まえた広域避難所の見直しを行い、平成29年度より運用を実施。

避難行動要支援者への配慮については、「避難のあり方検討会」において支援体制の構築に関する検討を行った。



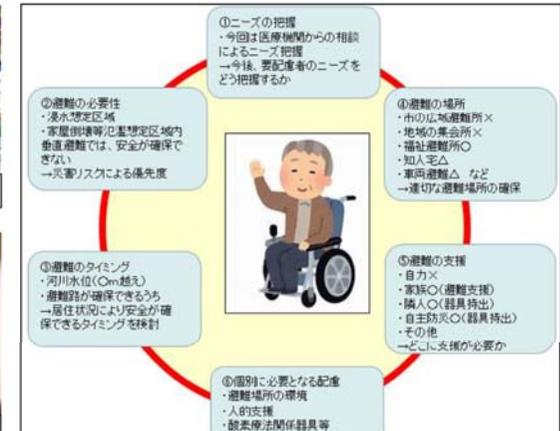
令和3年2月の各地区毎の避難所配置状況 (福知山市)



非侵襲的陽圧換気療法装置



保健師による面談



令和2年度災害時ケアプランのモデル実施 (福知山市)

取組を実施した効果、成果

・大規模な災害も踏まえた避難体制を構築しておくことで、災害の規模に応じた避難体制を適切にとることが期待できる。

・R2年度までに随時、要配慮者利用施設及び小中学校における避難確保計画の作成を行う 【4市】

実施状況

●福知山市《R1年度・R2年度》

京都地方気象台や京都府砂防課と連携し、要配慮者利用施設の高齢者・障害者等社会福祉施設を対象とした避難確保計画の作成・運用に向けた説明会を開催（令和元年11月26日、令和2年12月2日）

●舞鶴市《R1年度》各施設や小中学校で避難確保計画の作成に関する説明会を実施。

《R2年度》小中学校において避難確保計画の作成を実施。

●綾部市《R2年度》54施設中37施設で避難確保計画を作成済（洪水・土砂：作成率:68.5%）（令和3年2月末時点）

●宮津市《R2年度》令和2年7月豪雨を踏まえ、市内の要配慮者利用施設等へ避難確保計画作成の依頼文書を送付し、34施設中16施設で避難確保計画を作成（令和3年1月末時点）



避難確保計画作成の説明会（福知山市）



避難確保計画説明会の様子（舞鶴市）

取組を実施した効果、成果

- ・令和2年7月豪雨直後という時期で、各施設とも関心が高く、多くの計画作成に結び付いた。
- ・避難確保計画を作成しておくことで、災害発生時の施設管理者やスタッフの行動の目安となり、避難行動要支援者の被災軽減に資することが期待できる。

ソフト対策 避難行動のための情報発信等について①

- ・H29年度末を目標時期とし、新たなステージに対応した防災気象情報の提供
- ・R2年出水期を目標時期とし、「洪水警報の危険度分布」の改善を予定

【气象台】

実施状況

《R1年度》

- ・「洪水警報の危険度分布」において、「危険度分布」のプッシュ型通知サービスの提供開始(11か国語で提供、7月より)
- ・洪水浸水想定区域のリスク情報を重ね合わせて表示できる改善を実施(12月)

《R2年度》

- ・「洪水警報の危険度分布」において、由良川の内水氾濫の危険度の表示方法を改善(5月28日)



「由良川の内水氾濫の危険度の表示方法」の改善 (气象台HP)

取組を実施した効果、成果

- ・「洪水警報の危険度分布」の改善により、洪水予報河川周辺の内水氾濫の危険度の高まりを、住民の方が自ら判断して避難行動を行うことが期待できる。

ソフト対策 避難行動のための情報発信等について②

・随時、夜間の避難が困難なことから、早めの避難情報等の発令や避難所開設を行う場合があることを住民に予め周知。引き続き、空振りを恐れない早めの避難情報等の発令を実施。 【4市】

実施状況

- 福知山市《R1年度》
台風接近時等の大雨、暴風が予想される場合、避難勧告等の発令基準に基づき早めの避難情報発令を実施。また、出前講座や防災訓練において住民への周知を徹底。
- 舞鶴市《R1年度・R2年度》
早め早めの避難行動をとるよう、市の広報紙等を通じて周知。
- 綾部市《R1年度・R2年度》
空振りを恐れない早めの避難を出前講座や広報等で周知
- 宮津市《R1年度》
令和元年台風10号において、指定避難所を開設(8月15日18時～8月16日6時 16世帯16人)

「自分の意思で行動する」ために、おしものとき、どのように行動するか事前に確認しましょう。

「自分の意思で行動する」ために、おしものとき、どのように行動するか事前に確認しましょう。

「自分の意思で行動する」ために、おしものとき、どのように行動するか事前に確認しましょう。

広報ねっと6月号で周知(綾部市)

「もしものために 感染症・災害に備えましょう」のチラシ。感染症・災害に備えようというメッセージと、具体的な対策が記載されている。

あなたにできることがある

あなたにできることがある。避難行動の重要性と、市民が取るべき行動が紹介されている。

特集 命を守る

特集 命を守る。災害時の命を守るための具体的なアドバイスが掲載されている。

広報まいづる6月号で周知(舞鶴市)

取組を実施した効果、成果

・災害時でも自分だけは大丈夫という「正常性バイアス」に陥ることを防ぎ、住民の早めの避難行動に繋がることを期待できる。

ソフト対策 避難行動のための情報発信等について③

- ・H30年度出水期まで随時、プッシュ型の情報伝達手段の充実及び多様化 【4市、京都府、近畿地整】
- ・H30年度出水期までに避難行動要支援者に対し、プッシュ型の情報伝達が確実になされるよう支援（携帯防災メールの登録支援、防災ラジオの各戸配布、自主防災組織の訪問や電話による戸別の声かけ体制の整備等） 【4市】

実施状況

●福知山市

《R2年度》気象情報や避難情報、避難所情報等を発信できる新たな情報発信ツールとして本市独自の防災アプリを開発、令和3年5月運用開始予定。

●舞鶴市

《R1年度》「まいづるメール配信サービス」に加え、「ヤフー防災アプリ」をプッシュ型の情報伝達として実施。

《R2年度》市公式ラインを運用開始。コミュニティFMのエリア拡大の工事を実施。防災情報伝達手段の多重化の一環として、自動起動ラジオが利用できるようする。

●綾部市

《R2年度》

土砂災害や浸水害など災害リスクの高い区域の居住者、防災情報の取得が困難な避難行動要支援者などの世帯に対し防災ラジオを無償貸与。



防災ラジオ(綾部市)

取組を実施した効果、成果

- ・災害時の多様な情報伝達手段の確保により、確実かつ迅速に情報を伝達し、住民の避難率の上昇に繋げる効果が見込まれる。

ソフト対策 避難行動のための情報発信等について④

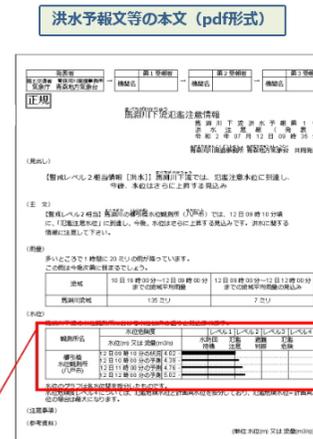
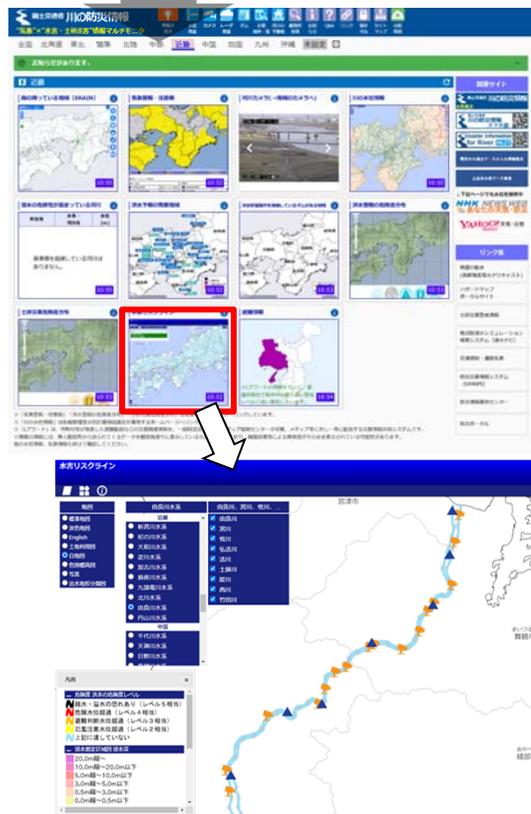
・R2年度までに随時、水害リスクラインに基づく水位予測及び洪水予報を実施

【近畿地整】

実施状況

《R1年度》

- ・近畿地整：9月から一般向けの提供サイト「川の防災情報」にて、由良川及び土師川の水害リスクラインを公開済み。水位予測は市町村に公開しているが、水害リスクラインを用いた洪水予報は調整中。



現在の水位

OOO下流の水位観測所における水位は次の通りと見込まれます。

観測所名	水位危険度			
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
水位観測所	水位(m)又は流量(m3/s)	水防画 特徴	注意 判断	危険 危険
□	12日 09時 10分の状況 4.02			
	12日 10時 00分の予測 4.39			
	12日 11時 00分の予測 4.76			
	12日 12時 00分の予測 5.02			

1～3時間後の予測水位

左：水害リスクライン、右：洪水予報のイメージ図(国土交通省「川の防災情報」HP)

取組を実施した効果、成果

- ・水位計で計測されたデータを最大限活用し、上流から下流まで連続的に洪水の危険度を捉え洪水予測を行うことで、広範囲にわたる水防活動の準備などに資することが期待できる。

ソフト対策 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充について①

- ・施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考え方に立ち、想定最大規模降雨時の水害ハザードマップを活用した地域住民が参加する避難訓練を毎年度に実施
- ・タイムラインのシナリオに基づく地域住民が参加する避難訓練を実施。その際、避難行動要支援者の避難も想定【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

●福知山市

《R1年度》福知山市地域防災訓練(9月1日)にて、ハザードマップやマイマップを活用した訓練を実施(211自治会、参加者数12,000人)。タイムラインに基づく関係機関の連携訓練、近隣地域と連携した要配慮者の避難支援訓練も実施。

《R2年度》福知山市地域防災訓練(8月30日)にて、地域が主体的に取り組む訓練の実施を呼びかけ、コロナ対策を踏まえたハザードマップ及びマイマップ、マイタイムラインを活用した訓練を実施(98自治会、参加者数4,200人)

●舞鶴市《R1年度・R2年度》水防訓練を実施

●綾部市

《R1年度》綾部市防災訓練を実施(139自治会、参加者数5,473人)。1自治会(施福寺自治会)において、タイムラインを作成した避難訓練を実施。

《R2年度》感染症対策を踏まえた避難所開設運営訓練等を実施。また、自治会で防災訓練等を実施。(44自治会、参加者数2,025人)

●京都府《R2年度》浸水想定区域図を作成、水害ハザードマップ作成支援。

●近畿地整《R1年度》福知山市地域防災訓練や舞鶴総合防災訓練を実施。

《R2年度》土のう講習会を実施



マイマップの作成、活用
(福知山市)



水防訓練時の様子(舞鶴市)

取組を実施した効果、成果

- ・避難行動要支援者の避難を想定した訓練により、共助・自助の連携による災害発生時に早めの避難や避難行動要支援者の移動介助が円滑に行えることが期待できる。

ソフト対策 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充について②

・要配慮者利用施設における避難訓練を毎年度に実施

【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

- 福知山市≪R1年度≫由良川中流部に位置する「ケアハウスとだ」、「グループホームとだ」、「わかばこども園」の訓練視察を実施(5月23日)。
- 舞鶴市≪R2年度≫作成された避難確保計画に基づき、避難訓練を実施。
- 綾部市≪R1年度・R2年度≫避難確保計画に基づき訓練を実施。



平成25年台風18号災害での奏功事例

○午後7時15分、大雨警報発表

○午後10時、由良川水位の上昇、近隣周辺の雨量、河川雨量レーダー等を判断し、施設内で避難命令を指示。利用者に起きて頂き着替等実施(夜勤者3名で対応)。

○午後11時、施設職員を参集し、利用者38名全員を高台にある同法人の福祉施設へ車両にて避難を実施。(午前0時30分、避難完了)

○翌々日に状況を確認したところ、施設の床上約1mまで浸水していたもの。利用者及び職員は、浸水前に避難したため、全員難を逃れた。

○同施設は、法人にて災害対策マニュアルを作成していた。(平成24年11月20日)

災害時要配慮者利用施設における避難訓練による成果(福知山市)

取組を実施した効果、成果

・避難行動要支援者の避難を想定した訓練により、共助・自助の連携による災害発生時に早めの避難や避難行動要支援者の移動介助が円滑に行えることが期待できる。

ソフト対策 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充について③

- ・毎年度において、自主防災組織への出前講座を継続し実施するとともに、学校関係については、対象を小中高校生徒だけでなく、先生等を対象としたものに拡大し、地域の水防災意識を高める

【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

- 福知山市《R1年度》出前講座を計32回開催。また福知山河川国道事務所と連携し、小学校向け防災教育を実施（10月28日）。
《R2年度》出前講座を計12回開催。
- 舞鶴市《R1年度・R2年度》
出前講座を開催（令和元年度は計49回、参加者数1,428人）。
消防署が実施する先生等を含めたPTA等への講座も継続。
- 綾部市《R1年度》出前講座を計35回開催（参加者数約1,600人）
《R2年度》出前講座を計2回開催（参加者数約30人）
綾部市自主防災組織等ネットワーク会議にて防災研修会を実施（12月17日、参加者72人）
- 宮津市《R1年度》
地域自治会等に対する地区防災計画策定の取り組みを推進。
9自治会で説明会を実施し、4自治会が計画等を策定。
- 近畿地整《R1年度》
中筋小学校、岡田小学校、綾部小学校、有仁小学校、中筋小学校、福知山高等学校附属中学校、由良川小学校、惇明小学校等で出前講座を実施。



ソフト対策 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充について④

- ・毎年度において、自主防災組織への出前講座を継続し実施するとともに、学校関係については、対象を小中高校生徒だけでなく、先生等を対象としたものに拡大し、地域の水防災意識を高める

【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

●気象台

≪R1年度≫

舞鶴市（7月24日）、綾部市（7月26日）、福知山市（7月30日）で「中丹“自然災害”情報連絡ネットワーク講習会」（聴講者は地域防災リーダーや、消防団員等を想定）が開催され、講演。

≪R2年度≫

防災気象情報の伝え方の改善の一環として、「自らの命は自らが守る」基本的な知識ととるべき行動について多くの方に学んでいただける学習教材（eラーニング教材「大雨のときにどう逃げる」）の提供を、気象庁ホームページで5月28日から開始。

気象庁 eラーニング教材 「大雨のときにどう逃げる」
監修：防災教育学会会長 諏訪清二先生

あなたの命、あなたの大切な人の命を守るため
台風・豪雨から「自らの命は自らが守る」基本的な知識ととるべき行動を学びます

教材の特徴

- 教材は、すべて気象庁ホームページで公開しています。好きな時間・ペースで学べます。
※動画教材は、YouTube®でも公開しています。
- 他人と接触せず学べる教材です。感染症拡大防止策を気にする必要はありません。
WEB会議の開催・参加の方法を説明した参考資料も添付しています。
※みんなで集まって一緒に行うことも可能です。その場合は、三密を避ける方法で実施してください。
- 専門家や経験者がいなくても、学習の進め方を解説する資料に沿って進められます。
- 人数や実施形式に決まりはありません。難しく考えず、気楽にはじめてください。

【学習の流れ】 動画教材で身につけた知識を、実習や意見交換で、いざという時に使えるようにしてゆきます

自らの命は自らが守る 基本的な知識を学ぶ → 自宅の災害リスク 自分の避難行動を整理 → 思い込みによる誤解や 疑問・不安を解消

動画教材を視聴（約15分×動画5つ） ワークシートに記入（概ね30分） みんなと意見交換（概ね30～40分）

学習する5つのステップ

- I 避難を行うためのポイントを理解しよう
- II あなたの家の災害リスクを知ろう
- III 大雨の時の避難先
- IV 「避難行動」を考えよう
- V あなたの避難のタイミングを考えよう

ワークシート フロチャートに沿って、自分の避難行動を整理
自宅のあるハザードマップ

← WEB会議を使って意見交換できるよう、使い方の参考資料も付属

学んだことをぜひ、周囲の人へ広めてください

アドレス：https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-el/dounigeru.html

eラーニング教材「大雨のときにどう逃げる」(気象台)

取組を実施した効果、成果

- ・eラーニング教材なので、感染症拡大防止策を気にする必要なく取り組んでいただくことができる。

ソフト対策 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充について⑤

・H30年度末までに、防災教育に関する支援を実施する学校を教育関係者等と連携して決定し、指導計画の作成支援に着手、作成された指導計画を関係市の学校に共有。

【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

- 福知山市《R1年度・R2年度》
「避難のあり方検討会」に基づき、防災教育研究プロジェクトチームを結成し、指導計画の作成に取り組んだ。
- 舞鶴市《R1年度・R2年度》
岡田小学校、由良川小学校等で防災教育を実施。
- 綾部市《R1年度》
由良川沿岸の小学校の授業参加日において防災教室を実施（10月17日綾部小学校、10月9日・11月21日中筋小学校、福知山河川国道事務所共催）
また、京都府管理河川沿川の小学校（物部小学校）において防災教室を実施。（福知山河川国道事務所・京都府中丹東土木事務所共催）



防災教育の様子(左:舞鶴市、右:綾部市)

＜図6—4＞ 令和2年度小学校での防災教育：地域の災害リスクや避難行動等について学習



防災教育の授業風景

テーマ：『逃げ時 逃げ場所 事前に確認』
 ・授業実施：7月中旬～下旬
 対象：全小学校の全学年
 ・ハザードマップを用いて
 自分の家や通学路で起こる災害を確認し、
 地域の実情に応じた防災について学習。

(我が家の避難計画)

我が家の 防災チェック 名前()

福知山っ子の命を守る合言葉「逃げ時・逃げ場所・事前に確認」

台風が近づいてきたり、大雨が長く降り続いたとき!

ハザードマップ(マイマップ)を見てみるよ 見てほめるものに○をつけよう

私の家は? () 避難するべきではない、() 避難場所がわからない、() 避難経路がわからない、() その他

通学路は? () 避難するべきではない、() 避難場所がわからない、() 避難経路がわからない、() その他

家族と一緒にいるときの行動 () や () に○や言葉を書こう

避難する場所の 別名は? 全てほめるので○をつけよう () ナベ、() ラッパ、() インターネット、() 防災無線、() エアホン

私の家族は? () 避難しない、() 避難する [どこへ] 家

家族や近所の人とは? () 避難しない、() 避難する [どこへ] その人の家が近い所

子どもだけ(一人)にいるときの行動 () や () に○や言葉を書こう

私は? () 避難しない、() 避難する [どこへ] 学校より高い所

私は? おうちの人は避難 [避難先: お母さん、お父さん] 電話番号() () ※ここに書かなくてもいいです。

私は? 家族と避難が取れないとき逃げ場所 [どこへ] 家

(感想文抜粋)

おうちの人と話し合った感想
色んな場所をわけて
よかったです。

おうちの人と話し合った感想
いろいろな場所をわけて
よかったです。

おうちの人と話し合った感想
いつ防災が起きかわからないから、私が安全
に避難できるようにしたいです。

・小学校教員による検討会を設置、兵庫県立大学の阪本教授の指導のもと、学年別に指導案を作成
 ・全校対象の研修会を経て、夏休み前に全小学校の全学年で防災教育の授業を実施
 ・「我が家の避難計画」、あるいはその基礎となるワークシートを、指導案に基づき作成、全小学校対象の研修会を経て、夏休み前に全小学校の全学年で実施、学習で使用したワークシートを活用して、家族と学習内容を共有し、保護者の理解も深めるようになった。

我が家の避難計画の作成の推進(福知山市)

取組を実施した効果、成果

・出前講座等で住民の水防災に関する知識や防災意識を高めることにより、災害発生時の避難のための自助・共助の促進に資することが期待できる。

ソフト対策 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充について⑥

- ・毎年度において、消防団（水防団）や地域住民等を対象とした現場説明会の規模拡大を図り、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考え方に立ち、水害リスクの高い箇所において堤防の共同点検を行い、地域の水防災意識を高める。 【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

- 福知山市≪R1年度≫防災パトロールを実施（5月28日）。地域住民の参加のもと実施し、川北の築堤現場等において点検を行った。
- 舞鶴市≪R1年度≫由良川沿川の自治会長へ説明会を実施（5月31日）。
≪R2年度≫新型コロナウイルス感染症対策のため、出水期前に由良川沿川の全自治会長へ文書で周知。併せて、電話等での説明を実施。
- 綾部市≪R1年度・R2年度≫防災パトロールを実施（令和元年6月7日、令和2年6月5日）。
- 京都府≪R1年度≫樋門設置箇所付近の堤防において、関係市町と共同点検を実施。
- 近畿地整≪R1年度≫福知山堤防愛護会への事業説明（7月30日）、福知山市議会による由良川の現地視察（8月2日）、土木学会水文部会による由良川緊急治水対策等の視察（10月31日-11月1日）を実施。
≪R2年度≫福知山市防災パトロール（6月2日）、綾部市防災パトロール（6月5日）を実施。



防災パトロールの様子（福知山市）



防災パトロールの様子（綾部市）



防災パトロールの様子（京都府）



取組を実施した効果、成果

- ・堤防の共同点検によって、堤防や水防工法に関する知識の共有に資することが期待できる。
- ・水害リスクの高い箇所の情報を共有することにより、災害発生時の自治体の連携強化、地域の水防力の向上が期待できる。

ソフト対策 防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充について⑦

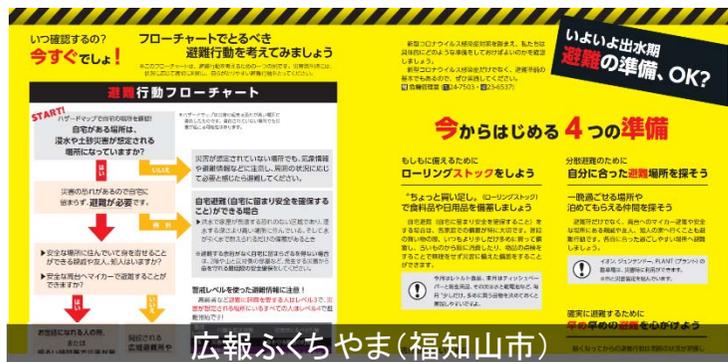
・R2年度まで随時、効果的な「水防災意識社会」の再構築に資する広報を検証の上実施
【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

- 福知山市《R1年度・R2年度》年間を通じて広報誌には各種防災関連記事を掲載。
- 舞鶴市《R1年度・R2年度》市広報紙やホームページ、メール配信サービス等で水害について広報。
- 綾部市《R1年度・R2年度》市広報紙において、出水期に備えて特集記事を掲載。
- 宮津市《R1年度》広報誌で防災に関する特集記事を掲載(7月号)し、事前準備や避難行動の事例掲載のほか、平成30年7月豪雨の際に課題となったペット避難のあり方について周知。
- 京都府《R1年度・R2年度》公共施設等でパネル展示による啓発活動を実施
- 気象台《R1年度》NHK京都「京いちにち(京の特集 命を守る防災情報)」(7月16日放送)において、大雨警戒レベルの解説や「大雨・洪水警報の危険度分布」の紹介を実施。
《R2年度》「大雨警戒レベル」、「大雨・洪水警報の危険度分布」、eラーニング教材「大雨のときにどう逃げる」を中心とした広報を気象庁(京都地方気象台)ホームページ等で実施。
- 近畿地整《R1年度・R2年度》治水記念館パネル設置



水防月間パネル展(京都府)



広報ふくちやま(福知山市)



ペット避難のあり方について周知(宮津市)

取組を実施した効果、成果

・広報誌は各戸配布のため多くの方に防災情報等を知って頂くことができ、災害に対する関心や防災意識の向上が期待できる。

- ・R2年度までに随時、大野ダムにおいて、ダム操作規則等の総点検を実施し、結果を踏まえて関係機関と調整を行う。 【京都府】

実施状況

《R1年度》

- ・H30年度に「京都府大野ダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた検討会」を開催し、令和元年度は以下のことを実施。
 - 事前放流の充実化に向けた実証実験の実施
 - 目標水位EL154.0m(1m低下、令和元年5月)
 - 目標水位EL153.0m(2m低下、令和元年10月)
 - 緊迫感の伝わる放流連絡様式の改定(令和元年5月)
 - 貯水池のカメラ画像を確認可能にする等、視覚的に伝わりやすいホームページの内容改善(令和元年6月)
- ・府民等にダムの役割や仕組みを解説し、正しいダムの知識を持ってもらうため、大野ダムの啓発用マンガの制作(令和2年3月作成)



大野ダムの啓発用マンガ

《R2年度》

- ・8月に目標水位EL153.0mの事前放流の運用開始。
- ・最終的な目標水位であるEL150.0m(5m低下)まで水位を下げる実証実験の実施。
- ・ダムの異常洪水時防災操作(緊急放流)について、報道機関へ情報提供を開始。

取組を実施した効果、成果

- ・事前放流の運用開始により、異常洪水時防災操作(緊急放流)の移行リスクを低減し、下流域の治水安全度の向上を図る。
- ・ダムの異常洪水時防災操作(緊急放流)に関して報道機関へ情報提供することで、一般住民の避難行動につながる重要な情報を早急に広く周知することが期待できる。

- ・ 毎年継続して、消防団(水防団)が河川管理者等と共に、大規模出水時に水防活動を行う可能性の高い水害リスクの高い箇所を予め把握すべく、水防工法訓練や由良川防災パトロール、災害図上訓練(DIG:Disater Imagination Game)等を実施 【4市、京都府、気象台、近畿地整】

実施状況

- 福知山市≪R1年度≫防災パトロール(5月28日)、福知山市地域防災訓練(9月1日)を実施。
- 舞鶴市≪R1年度・R2年度≫防災パトロール、水防訓練を実施。
- 綾部市≪R1年度≫防災パトロール(6月5日)、消防団水防工法訓練(5月19日)を実施。
また、地域FMの番組を活用し市民の防災意識の高揚を図る。
≪R2年度≫防災パトロール(6月5日)を実施。
消防団水防工法訓練を実施※新型コロナウイルス感染症対策のため6月21日～7月19日の間の4日間で分散訓練
- 宮津市≪R1年度・R2年度≫防災パトロールを実施(令和元年5月21日、令和2年6月11日)
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、市関係部署職員のみで実施
- 京都府≪R1年度≫由良川合流部付近の樋門設置箇所において、関係市町と防災パトロールを実施。
- 近畿地整≪R1年度≫福知山市地域防災訓練(9月1日)、舞鶴総合防災訓練(10月27日)にて、排水ポンプ車出動訓練や土のう作成実演等を実施。
≪R2年度≫元淀川左岸水防団で水防専門家による水防工法に関する講習会(座学と実習)を実施(12月8日・9日)。福知山市防災パトロール(6月2日)、綾部市防災パトロール(6月5日)を実施。



防災パトロールの様子
(舞鶴市)

取組を実施した効果、成果

- ・ 水害リスクの高い箇所について、消防団(水防団)と河川管理者で情報共有することができた。
- ・ 出水期を前に、水防工法の習熟と指揮命令系統の確立を目的とした訓練を実施できた。

・毎年度の実施(防災ステーション及び水防拠点はR1年に整備完了予定)を目標とし、土のう造成機(国が保有)を活用するなどして予め製造した土のうや土砂を、既存の土のうステーション等の他、今後整備する防災ステーションや水防拠点に大量に仮置きしたり、水のうを配備したりしておくことにより、水防活動の円滑化かつ迅速化を図る。各市はそれを利用することで円滑かつ迅速な水防活動を行う。

【4市、近畿地整】

実施状況

- 福知山市《R1年度・R2年度》
出水期前に福知山河川国道事務所の協力のもと、土のう造成機を活用し土のう製造を行い、市内33箇所ある土のうステーションへの補充。
- 綾部市《R1年度・R2年度》
住民の方が自由に使える土のうステーションへの土のうの補充(令和元年5月24日、令和2年5月26日実施)
- 舞鶴市《R1年度・R2年度》
出水期に土のうステーションを市内4か所に設置。
- 近畿地整《R1年度》
2台目の災害対策用機械(土のう造成機)を導入し、沿川自治体に説明会を実施(2月17日)



取組を実施した効果、成果

・作成に時間と労力を要する土のうを事前準備し、自由に使用できる「土のうステーション」に設置することで、水防活動の円滑化・迅速化が図られ、住家等の浸水被害の軽減が期待できる。

- ・毎年度の実施を目標とし、引き続き、消防団(水防団)員の確保(募集等)と、自主防災組織の新規設置に努める。

【4市】

実施状況

●福知山市《R1年度・R2年度》

自主防災組織育成事業による活動の推進、マイマップ、マイタイムラインの作成を機会とした新規設置を呼びかけ。消防団の確保としては、消防団協力事業所への登録、消防団応援の店の登録募集を呼びかけ。(全体326自治会のうち273自治会で自主防災組織を結成(結成率83.7%)、令和2年度末時点)

●舞鶴市《R1年度・R2年度》由良川沿川の自治会に、自主防災組織結成の促進を図るため、説明会を開催。

●綾部市《R1年度・R2年度》FMコミュニティ放送等を活用し、毎月、消防団員の募集の呼びかけ(消防団員787人/960人(定員)令和3年1月1日時点)綾部市消防団応援の店の登録数 108店舗(令和3年3月1日現在)

●宮津市《R1年度・R2年度》各消防団において、団員募集を随時実施。

綾部市消防団応援の店
募集中

綾部市消防団応援の店とは
お店や事業所に「綾部市消防団応援の店」にご登録いただき、料金の割引やポイントの加算などの特典を綾部市消防団員へ提供することで、綾部市の安全・安心を守る消防団員を応援していただくものです。登録に費用はかかりません。

私たちは
綾部市消防団
を応援しています

かんぱれ
消防団!!

消防団応援の店

表示証(ステッカー) 見本

＜一定の特典＞
購入(利用)料金の1割引、ドリンク1杯無料、ポイント加算、来店履歴 等
＜対象店・事業所＞
飲食店、日用品販売店、洋服店、理美容店、電気店、コンビニ等

＜登録のメリット＞
登録をいただいた店舗等には左記の表示証を交付します。
消防団員及び家族の来店促進による来店効果が増えます。
表示証(ステッカー)を選択することで、店舗の防犯に無関係な店舗等として来店からのイメージアップが期待されます。

SHOP
一定の料金を提供
登録証の提供

(綾部市消防団本部) 消防団本部
表示証の交付
消防団員にHPに掲載
消防団員を応援する店舗
としてイメージアップ

登録申し込み
登録証の配布
※店舗で保管されている
ことを実査、入館促進。

「綾部市消防団応援の店」
制度の導入(綾部市)

取組を実施した効果、成果

- ・あらゆる機会を通じて継続的に呼びかけを行うことで、消防団員の確保と新規自主防災組織の設立につながることを期待され、新規自主防災組織の設置が令和元年度は福知山市と綾部市でそれぞれが2組織、令和2年度は福知山市で1組織あった。

・毎年継続して、リーダーを育成し、後世に繋ぐための研修会を開催

【4市】

実施状況

- 福知山市≪R1年度・R2年度≫自主防災リーダー養成講座を開催
(令和元年は7月21日初級、7月28日初級と中級、延べ143人が参加)
(令和2年は11月22日初級、11月29日初級と中級、延べ94人が参加)
- 綾部市≪R2年度≫綾部市自主防災組織等ネットワーク会議にて
防災研修会を実施(12月17日、参加人数:72人)
- 舞鶴市≪R1年度・R2年度≫
自主防災組織の結成促進のため、由良川沿川の区長会に
入り、出前講座等を実施。
- 宮津市≪R1年度≫地域防災リーダー研修を実施(10月20日)



自主防災リーダー養成講座時の様子
(福知山市)



地域防災リーダー研修時の様子(宮津市)

取組を実施した効果、成果

- ・幅広い世代を交えて、住民ならではの経験や視点から地域の危険箇所等を検討することにより、地域全体の水防体制が強化され、防災意識を向上・共有することが期待できる。
- ・研修を通じて、自主防災の重要性を認識頂くことで、新規自主防災組織の設置につながることも期待できる。

- ・大規模な氾濫に対してより広域的、効率的な水防活動が実施できるよう関係者の協力内容等について検討・調整
- 【4市】

実施状況

●福知山市<<R1年度>>

台風10号、19号の接近時に、関係機関からリエゾン派遣。

●綾部市<<R1年度>>

由良川大規模内水対策部会において、内水対策など沿川市町及び防災関係機関との取組などを共有。

取組を実施した効果、成果

- ・リエゾン派遣により、関係機関相互の情報共有ができた。

・R2年度までに随時、浸水想定区域内の市役所や災害拠点病院等の機能確保に関する情報を共有し、耐水化、非常用電源等の必要な対策については各施設管理者において順次実施。

【4市、京都府、近畿地整】

実施状況

●福知山市<<R1年度・R2年度>>

市役所については、BCP策定済み。災害拠点病院である市民病院についても、避難確保計画策定済み。

●舞鶴市<<R1年度・R2年度>>

加佐分室や加佐診療所等との情報共有

取組を実施した効果、成果

・拠点施設の機能確保に関する取り組みを展開していく。

- ・福知山市においては、総合的な治水対策による段階的な整備を踏まえ、効率的かつ迅速に氾濫水を排水するため、排水手法の検討等を整備段階毎に行い、大規模な水害を想定した由良川排水計画を作成。綾部市は、都市下水路に係る「雨水対策基本計画」を策定し具体的な対策に取り組む。また、他市においても、排水計画の必要性について検証し、必要に応じて排水計画を作成（福知山市はR2年度末を目標時期とし、福知山市以外は必要に応じ随時）
- 【4市、京都府、近畿地整】

実施状況

- 綾部市《R1年度・R2年度》
 - ・綾部市街地の「雨水対策基本計画」に基づき、古川樋門付近（延町）に綾部雨水ポンプ場の建屋建築工事・土木工事を実施。令和3年完成予定。
 - ・各戸雨水貯留施設設置補助（令和元年度：9基、令和2年度11基）
- 舞鶴市《R1年度・R2年度》内水対策のメカニズムを検証。
- 宮津市《R2年度》河川整備計画について、国土交通省と協議を行い、一定方向性を見出した。
- 京都府《R1年度・R2年度》由良川減災対策協議会の内水対策部会にて取組に参加。



綾部雨水ポンプ場（綾部市）
【令和3年完成予定】
（上：整備前、下：整備後）

取組を実施した効果、成果

- ・排水施設や貯留施設等の整備を行うことで、浸水被害の軽減に資することが期待できる。

・R2年度までに随時、関係機関が連携し内水対策を検討を実施。

【4市、京都府、近畿地整】

実施状況

- 福知山市 ≪R1年度・R2年度≫
避難のあり方検討会において、過去の浸水災害時のデータをもとに、支川下流域の内水位から床下、床上浸水までの時間を想定し、内水氾濫による避難スイッチを設定。水害常襲地である大江町蓼原地区をモデル地区に設定し、運用を開始。
- 舞鶴市 ≪R1年度≫
志高地区において、内水被害が発生する浸水メカニズムの解析を実施。
- 宮津市 ≪R2年度≫
河川整備計画について、国土交通省と協議を行い、一定方向性を見出した。
- 京都府 ≪R1年度・R2年度≫
由良川減災対策協議会における市町の内水対策計画の作成に対して、情報提供や取組を支援
- 近畿地整
≪R1年度≫ 由良川大規模内水対策部会を2回実施
≪R2年度≫ 内水対策部会の書面開催

R2.2.13

水防災意識社会 再構築ビジョン 第4回由良川大規模内水対策部会を開催

～内水による被害軽減に向けた取組状況の共有と今後の継続的な取組を確認～

平成29年台風21号、平成30年7月豪雨等における内水による浸水被害を踏まえ、浸水対策の進捗状況を確認するため、第4回由良川大規模内水対策部会を開催しました。国、府、市等が連携して進めている、由良川流域における内水による浸水被害軽減対策について、取組の進捗状況を共有し、今後の継続的な取組を確認しました。

○日時：令和2年2月13日（木） 13：30～14：30
○場所：福知山市消防防災センター 2階 研修室
○部会委員：福知山副市長（市長代理）、舞鶴市建設部長（市長代理）、綾部市副市長（市長代理）、宮津市建設部長（市長代理）、京都府河川課担当課長（建設交通部長代理）、気象庁京都地方気象台長、福知山河川国道事務所長

＜出水時の避難行動のための情報発信＞
事前放流の充実化に向けた実証実験の実施

＜委員からの主な発言内容＞

◆取組の進捗状況
＜避難行動・被害軽減のための検討等＞
・ローカルエリアリスク情報の提供による避難スイッチの設定（福知山市）
・ハザードマップ作成や避難行動タイムライン等の作成支援（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市）
・内水による浸水メカニズムの分析解析を踏まえた対策検討（福知山市、舞鶴市）
・都市下水道内水対策の整備手法の検討（宮津市）
・排水ポンプ車の導入や配置計画（福知山市・舞鶴市・綾部市・京都府・国交省）
・雨水排水ポンプ場の整備（福知山市、綾部市）
＜出水時の避難行動のための情報発信＞
・大野ダムの操作及び放流情報提供のあり方について学識者を交えた検討会の開催、事前放流の充実化に向けた実証実験の実施（京都府）
・「洪水警報の危険度分布」の活用方法の周知と表示方法の改善検討（気象台）
＜河川管理施設の充実等＞
・地先レベルの密な水位情報把握のための危機管理型水位計の設置（福知山市、京都府、国交省）
・市管理河川への水位計の設置（舞鶴市）
・簡易型河川監視カメラの設置（京都府、国交省）



第4回由良川大規模内水対策部会の様子

＜避難行動・被害軽減のための検討等＞
ローカルエリアリスク情報の提供と避難スイッチの設定

避難スイッチの設定イメージ（福知山市）

ハザードマップ作成やタイムライン等の作成支援

内水による浸水メカニズムの解析

内水被害発生地帯における解析（舞鶴市）

防災マップ・タイムライン作成支援（綾部市）

都市下水道内水対策の整備

河川管理施設の充実等

簡易型河川監視カメラの設置

内水対策の構築（宮津市）

内水対策の構築イメージ

先ずの進捗確認し出し

京都府（由良川流域11箇所）

第4回由良川大規模内水対策部会の開催概要
(令和2年2月13日開催)

取組を実施した効果、成果

・関係機関と連携して、避難行動・被害軽減のための検討等、出水時の避難行動のための情報発信、河川管理施設の充実等取組の進捗状況を共有出来た。

- ・H30年代半ばの早い時期を目標時期とし、下流部では輪中堤整備・宅地嵩上げ、中流部では連続堤防整備及び河道掘削等を実施 **【近畿地整】**

実施状況

《R1年度》

- 輪中堤整備：下東地区、三日市地区、阿良須地区で既成
- 宅地嵩上げ：和江地区、岡田由里地区等で約90戸実施
- 連続堤整備：川北地区で既成、前田地区の築堤に着手
- 河道掘削等：前田～戸田地区では河道掘削・樹木伐採を実施

《R2年度》

- 輪中堤整備：緊急治水対策による輪中堤が全て完成
- 宅地嵩上げ：緊急治水対策による宅地嵩上げが全て完成
- 連続堤整備：前田地区の築堤を実施中
- 河道掘削等：南有路地区～下天津地区、戸田・観音寺地区等で河道掘削・樹木伐採を実施



取組を実施した効果、成果

- ・取組を実施した地区では、整備完了後には整備計画流量(S34規模洪水)に対して上下流とも浸水家屋が解消されることが見込まれる。

・R1年度を目標時期とし、福知山市街地において、排水機の増設、調節池の建設、貯留管の増設等の総合的な治水対策を行う。
【福知山市、京都府、近畿地整】

実施状況

●福知山市

≪R1年度≫弘法川流域 西川調節池整備工事を実施。法川流域 桃池調整池、草池調整池、小谷ヶ丘調整池の整備工事、農業用ため池3池に緊急放流孔整備工事を実施。ため池維持管理に係る覚書の締結。法川排水区 バイパス管内貯留施設工事(□2000×1400、L=130.1m)、西池貯留施設工事(V=1300m³)、水内地内仮貯留施設工事(V=1,330 m³)を実施。

≪R2年度≫

- ・調整池：出水期に調整池の貯水機能の確保を完了し、現在周辺整備を実施中。
- ・バイパス管内貯留施設工事
- ・農業用ため池整備：弘法川流域に位置する農業用ため池3池に緊急放流孔を整備。ため池維持管理に係る覚書に基づき事前にため池の水位を低下させ貯留量の確保。

●京都府≪R1年度・R2年度≫

弘法川は全体延長L=1400m概成

法川は全体延長L=1200m概成

新荒河排水機場で11m³/sのポンプ施設概成

●近畿地整

≪R1年度≫法川排水機場及び荒河排水機場の排水能力増強工事が完成

福知山市街地の総合的な治水対策として実施した主な内容



取組を実施した効果、成果

・令和2年の出水期前の5月末で整備が概ね完了し、福知山市・京都府・国土交通省の対策を合わせて平成26年8月豪雨と同程度の降雨に対して、床上浸水解消の概ね解消を図ることが出来る。

- ・ 樋門・樋管について、フラップ化等の無動力化を優先的に整備する対象施設を抽出し、順次整備を実施。H29年度内に整備対象を抽出し、H30年度から順次設計に着手。【近畿地整】

実施状況

●近畿地整

《R1年度》4樋門(大砂利川樋門・佐織谷川樋門・水田谷川樋門・引谷川樋門)の遠隔制御装置等の整備を実施

《R2年度》里第一樋門の無動力化(フラップ化)を実施

○整備前(引き上げ式ローラーゲート)



○整備後(フラップゲート)



取組を実施した効果、成果

- ・ 樋門や樋管の無動力化により、内外水位差による確実な操作や操作員への負担が軽減されると期待できる。

ハード対策 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備について①

- ・R2年度までの段階的な実施で円滑かつ迅速な避難に資する施設(ハード)整備
例)防災行政無線スピーカーの増設、CCTVカメラの増設、民間企業等と連携した一時避難場所の確保、避難経路の指定・整備等 【4市、京都府、近畿地整】

実施状況

●福知山市《R1年度・R2年度》

アナログ式防災行政無線をデジタル式防災行政無線へと更新し、災害時等における情報伝達のための基幹システムとして再構築。従来の屋外拡声子局、戸別受信機等による情報伝達に加え、スマートフォン等の普及に伴う情報取得手段の多様化に対応するため、新たに独自の「福知山市防災アプリ」を整備。

《防災アプリの要配慮者対応抜粋》

- ・市が配信する防災情報を文字、音声両方で何度でも確認可能
- ・8か国語変換対応
- ・高齢者の利用が多い「らくらくフォン」でもインストール可能



福知山市独自の防災アプリ「福知山市防災」
(福知山市)令和3年度から運用予定

●舞鶴市《R1年度・R2年度》

令和元年度に地域のコミュニティFMの難聴地域解消に向けた電波調査を実施し、令和2年度はエリア拡大の工事を実施。また、危機管理型水位計の設置を実施。

●綾部市《R2年度》

防災ラジオを整備(消防庁無償貸与200台、市整備分400台)し、土砂災害や浸水害などの災害リスクがあり、防災情報の入手が困難な世帯に対し無償配布。

●近畿地整《R1年度》

CCTVを弘法川排水機場の1箇所と、樋門4台の計5台を整備。全10箇所の河川情報表示板および全7箇所の水位情報表示板について点検を実施。

取組を実施した効果、成果

- ・災害や避難等に関する情報伝達手段の多重化により、住民の方それぞれに合った情報入手手段を選択する事ができる。

ハード対策 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備について②

・R2年度までに随時、簡易型河川監視カメラ配置計画を検討・調整し、順次整備を実施。

【京都府、近畿地整】

実施状況

●京都府《R1年度》

福知山市8基、綾部市3基、舞鶴市4基、宮津市1基の簡易型カメラを設置。

●近畿地整

《R1年度・R2年度》

簡易型河川監視カメラを39箇所設置し、令和2年4月から「川の防災情報」にて洪水時の現地画像を提供



取組を実施した効果、成果

・ホームページ上で洪水時の河川状況を提供する事で、住民の方の自主避難や水防活動に活用されることが期待できる。

ハード対策 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備について③

・H29年度中に危機管理型水位計配置計画を公表し、これに基づいて、順次整備を実施する
【京都府、近畿地整】

実施状況

●京都府<<R1年度>>

平成30年度より2年間で府内中小河川の122箇所
に危機管理型水位計を設置、【H30: 62箇所(うち由良川流域28箇所)に設置、R1:60箇所(うち由良川流域25箇所)に設置】。HPで洪水時の水位情報を沿川住民に提供し、水防活動や自主避難への活用を図る。

●近畿地整<<R1年度・R2年度>>

平成30年度に由良川及び土師川沿いに30箇所設置し、「川の防災情報」にて洪水時の水位情報を提供

【中小河川における危機管理型水位計】



取組を実施した効果、成果

・水位計の無かった中小河川に水位情報を提供し、市町の避難情報の目安や地域の水防活動、住民の自主避難への活用が可能となった。